

---

## 【特集】労働時間の不安定化と家族生活への影響

---

特集にあたって

鈴木 玲

---

本特集「労働時間の不安定化と家族生活への影響」で掲載する2つの論文は、サービス経済の拡大や新自由主義経済の進展に伴う生産や流通の柔軟化によって生まれた労働時間の問題についてあつかう。マクレート論文は、予測不可能な勤務スケジュールについて、大石論文は非典型時間帯労働に焦点をあてる。マクレート論文は予測不可能な勤務スケジュールの女性化を規定する制度的・政策的要因について西欧諸国の比較を通じて検討し、労働協約の適用、育児休業の充実、保育サービスの提供が、予測不可能な勤務スケジュールの女性化を促進していることを示す。大石論文は、日本における非典型時間の労働の現状とその背景、および親（とくに母親）の非典型時間帯労働が子どもにおよぼす影響について検討する。

なお、本特集の論文は、社会政策学会第132回大会（2016年6月25～26日、於：明治大学の国際交流分科会“Impact of Flexible, Unstable Work Schedules on Family Care Arrangements and Children’s Well-being”報告論文を踏まえて、マクレート論文は加筆修正のうえ日本語に翻訳し、大石論文は本誌掲載用に書き下ろしていただいたものである。同分科会では、コメンテーター（水野谷武志北海学園大学教授）および参加者から貴重なコメントをいただいた。改めて感謝を申し上げます。

（すずき・あきら 法政大学大原社会問題研究所所長／教授）